

科目名	ソーシャルワーク実習（社会福祉士必修）		
授業形態	実習	学年	2
開講時期	2022年度 前期～後期	単位数	6
担当教員	木村 淳也		
内容および計画	<p>[授業の目的・ねらい] 社会福祉士として仕事をするうえで必要な専門知識及び専門技術、関連知識の内容について、理解を深めることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 事前学習、現場実習中の巡回指導等を踏まえたソーシャルワーク実習を行う。</p>		
1	ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。 なお、実習生は次に掲げる事項について実習指導者による指導を受ける。		
2	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成		
3	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成		
4	利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価		
5	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価		
6	多職種連携及びチームアプローチの実践的理解		
7	当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ		
8	地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解		
9	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）		
10	社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解		
11	ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 ・アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション		
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
教科書			

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
<b>参考書</b>				
<b>成績評価</b>				
<b>評価方法</b>				<b>割合(%)</b>
実習先からの評価				80
課題・レポート・報告書等				20
実習をとおして、実践的な援助技術を体得し、実り多い実習とするためにも、事前、事後の学びも大切にすること。				
<b>学習到達目標</b>	[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. ソーシャルワーク実習の意義を理解する。 2. ソーシャルワーク実践に必要な知識及び技術について具体的かつ実際に理解を深める。 3. 社会福祉士として求められる資質、技術、倫理、課題把握能力等、総合的に対応できる力をつける。			
<b>先修条件</b>				
<b>実務経験</b>	実務経験有り： 福島県教育委員会 スクールソーシャルワーカースーパーバイザー 本宮市教育委員会 スクールソーシャルワーカースーパーバイザー 等、相談援助業務の経験を活かしソーシャルワーク関連科目を担当している。			
<b>その他</b>	事前、事後の出席回数が不足していたり、学習の状況が不十分な場合には、実習委員会の判断により、実習の中止や単位認定ができないこともある。			